

神奈川県イノシシ管理事業の実施状況について

1 イノシシによる被害状況

イノシシによる農作物被害については、2016（平成 28）年度に被害金額が 80,000 千円を超えた後、それを越えていないが、増加傾向にある（図 1）。

地域別に見ると、2007（平成 19）年度以降、湘南地域及び県西地域が全体の農作物被害額の 9 割以上を占めており、次いで、県央地域、横須賀三浦地域の順となっている。

市町村別の農作物被害の発生地域については、2013（平成 25）年度以降、相模川以東において葉山町で継続的に発生している他、横須賀市でも令和元年度より発生している（図 2）。生活被害の報告件数は、令和元年度に過去最大となった（図 3）。

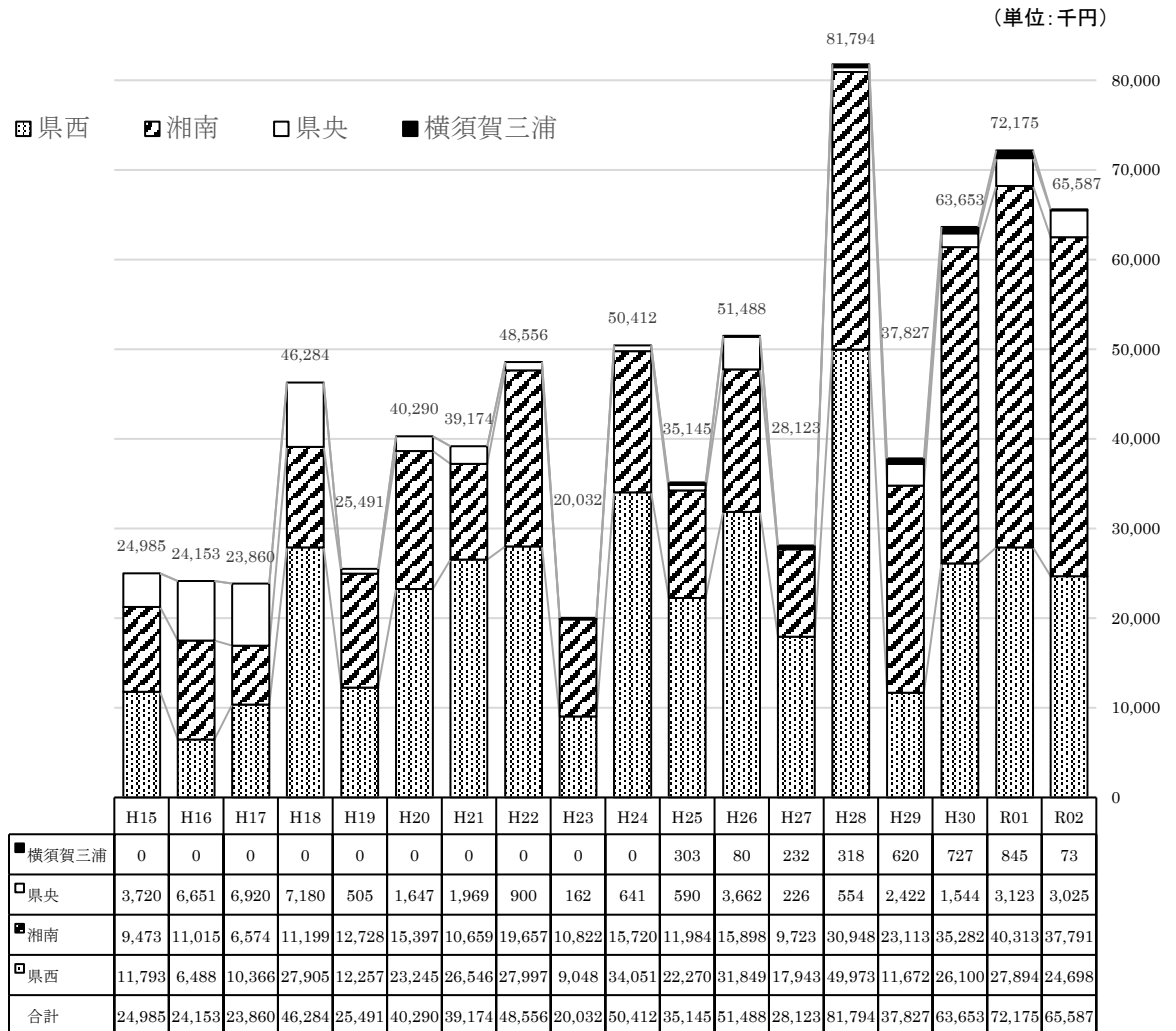


図 1 農作物被害額の推移

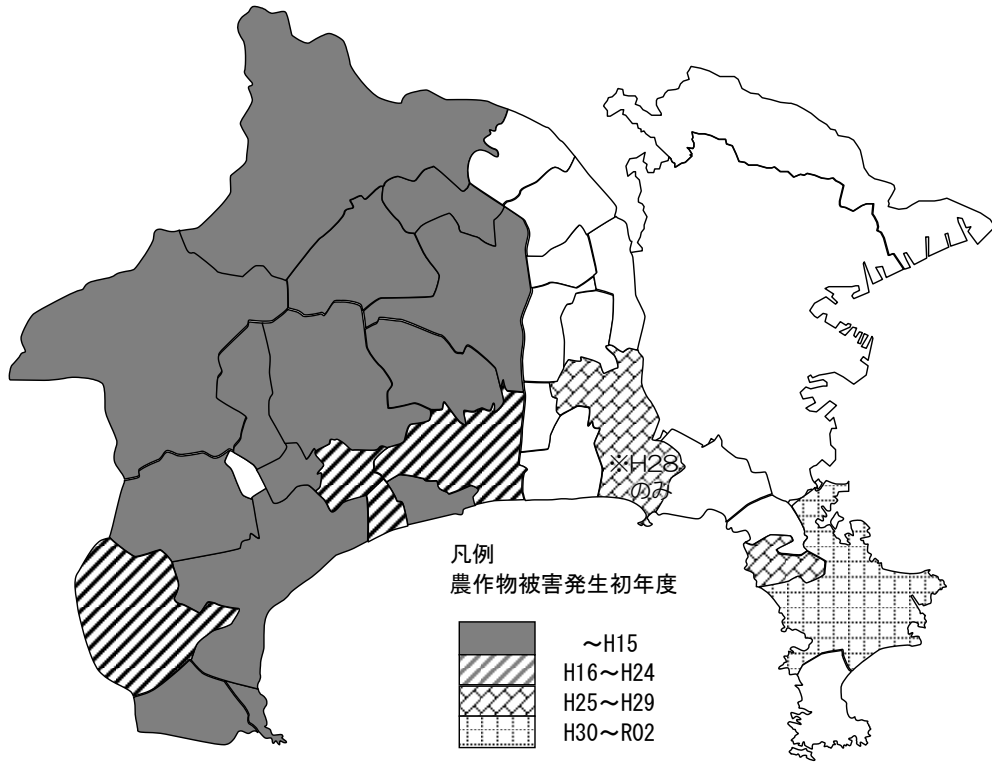
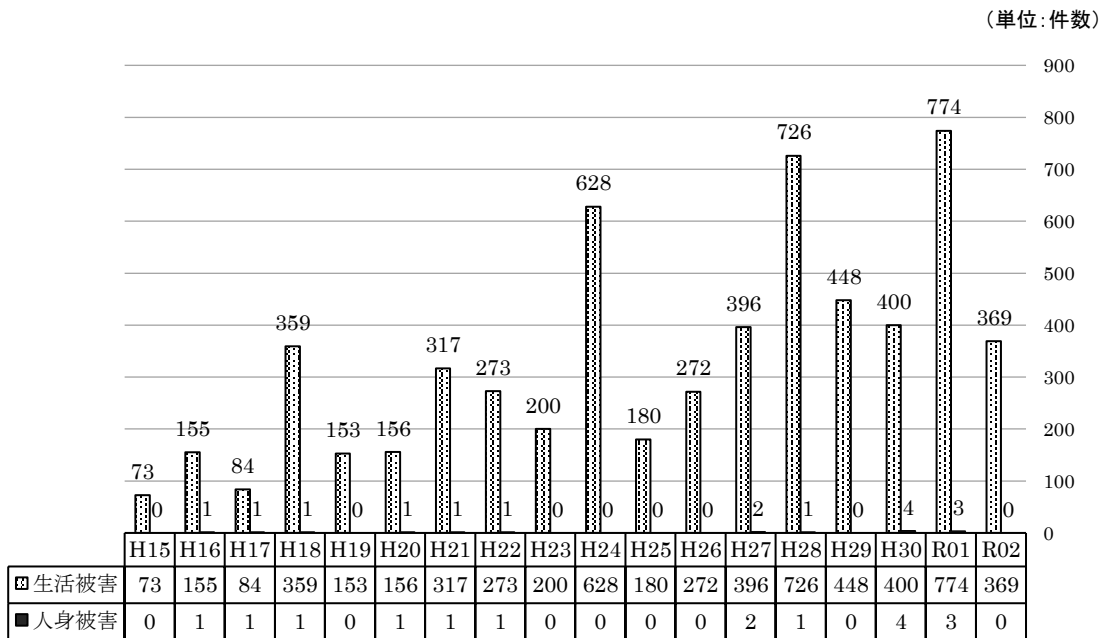


図2 農作物被害の分布拡大



※生活被害:屋外の物品等の損傷、生活上の脅威
 ※人身被害:傷害、飛びかかる等の威嚇

図3 生活被害・人身被害の推移

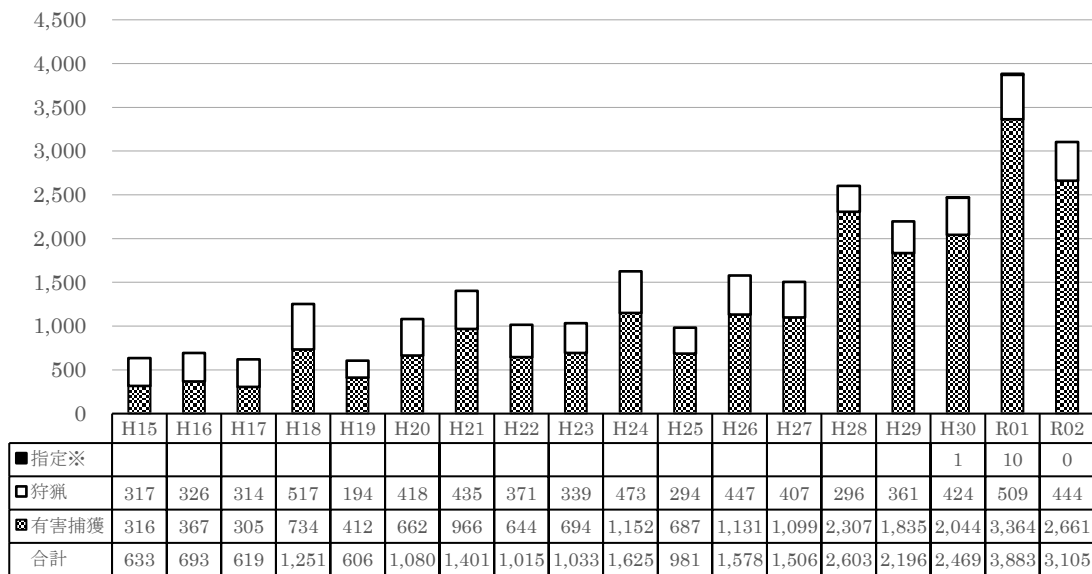
2 イノシシの捕獲状況

有害鳥獣捕獲による捕獲数は増加傾向にあり、2019（令和元）年度は過去最高の3,364頭となったが、2020（令和2）年度は2,661頭であり、狩猟及び指定管理鳥獣捕獲等事業と合わせて3,105頭となった。

狩猟による捕獲数については2003（平成15）年度以降、約200頭から約500頭の間を推移している（図4）。

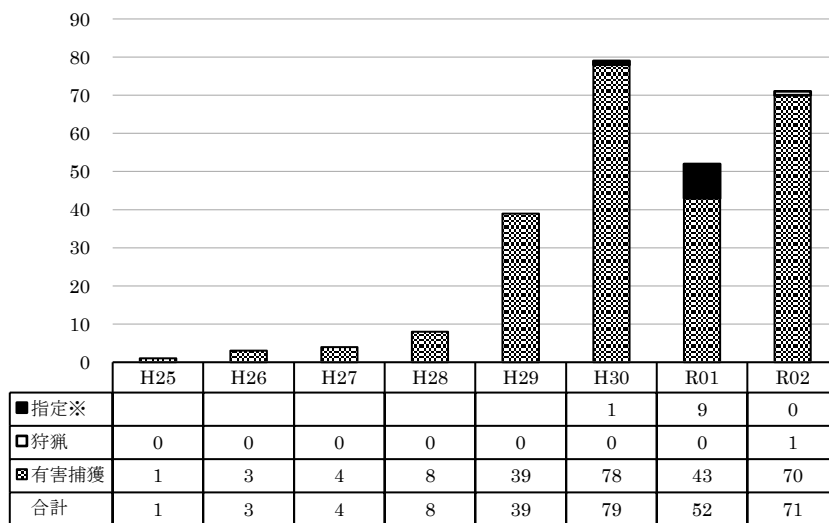
また、横須賀三浦地域では2013（平成25）年度以降捕獲が続いている（図5）。

なお、令和元年度及び令和2年度の捕獲数の分布について小区域（平成30年度から把握している、約5kmのメッシュを9等分した区域）で比較すると、捕獲数について三浦半島や県の沿岸部では増、北部や西部の内陸部の広い範囲では減となった（図6、7）。



※:指定管理鳥獣捕獲等事業

図4 捕獲数の推移（神奈川県全域）



※:指定管理鳥獣捕獲等事業

図5 捕獲数の推移（横須賀三浦地域）

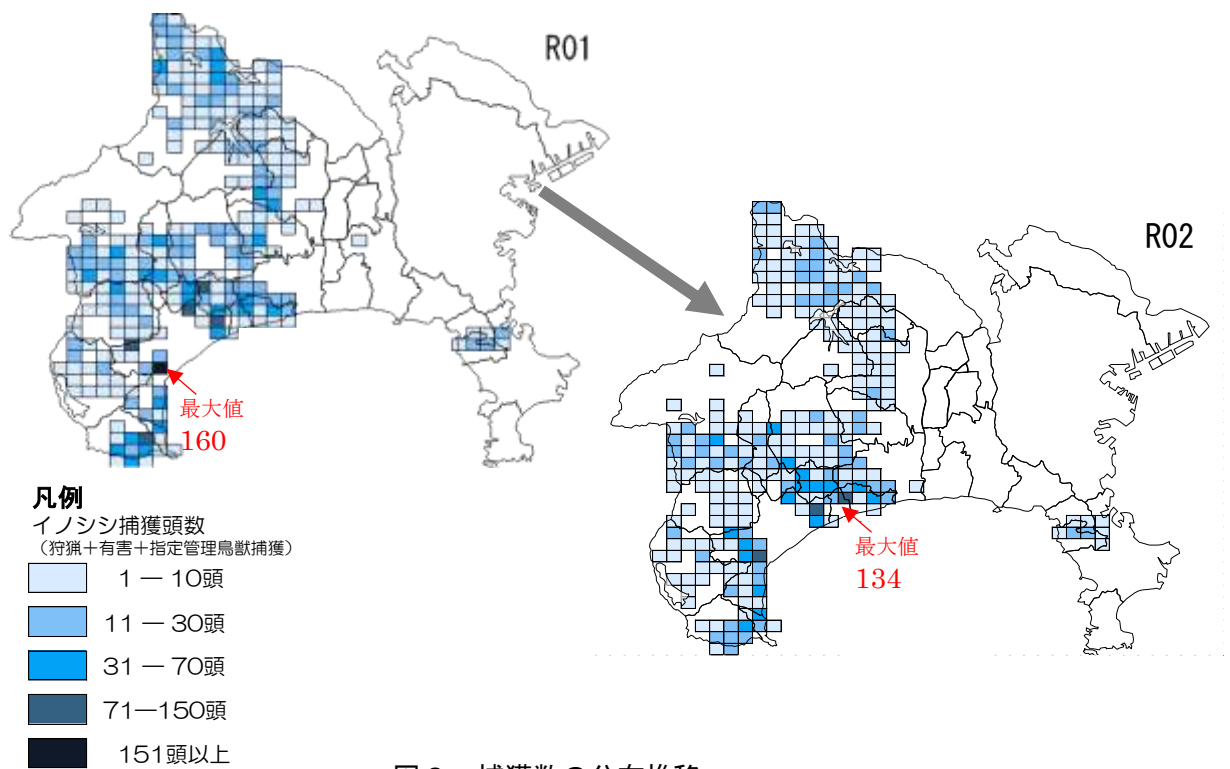


図6 捕獲数の分布推移

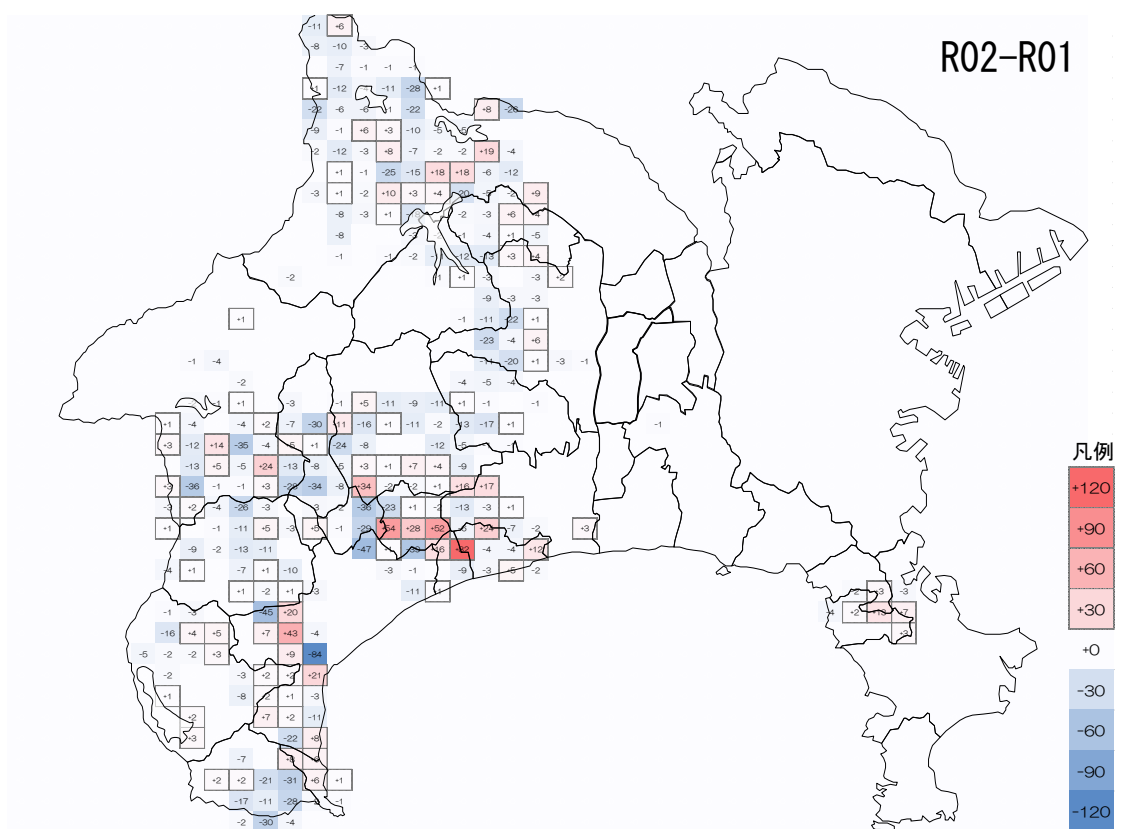


図7 小区域別捕獲数の増減

捕獲個体の内訳では、2020（令和2）年度は、成獣メスの比率は全体の約39%であった（図8、9）。

手法別の捕獲数を見ると、わな猟による捕獲数が全体の97%を占めている（図10）。

また、わなの種類別における捕獲は地域ごとに大きく差があり、横須賀三浦地域及び県央地域においては、わな猟における捕獲のうち、くくりわなによる捕獲がほぼ全体を占めている（図11）。

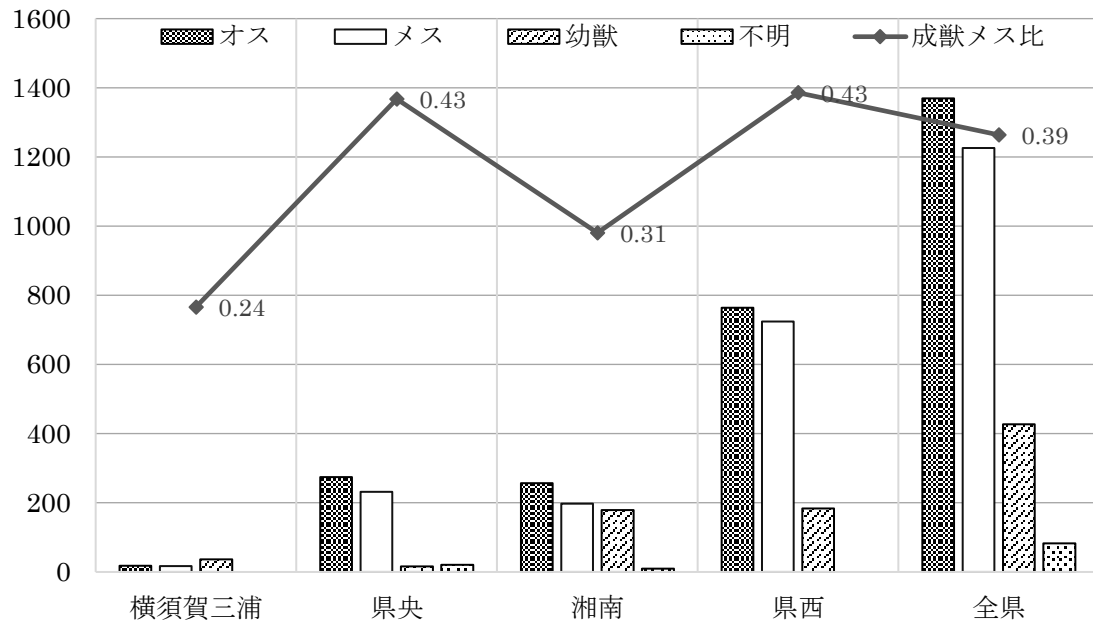


図8 成獣メスの地域別捕獲割合（令和2年度）

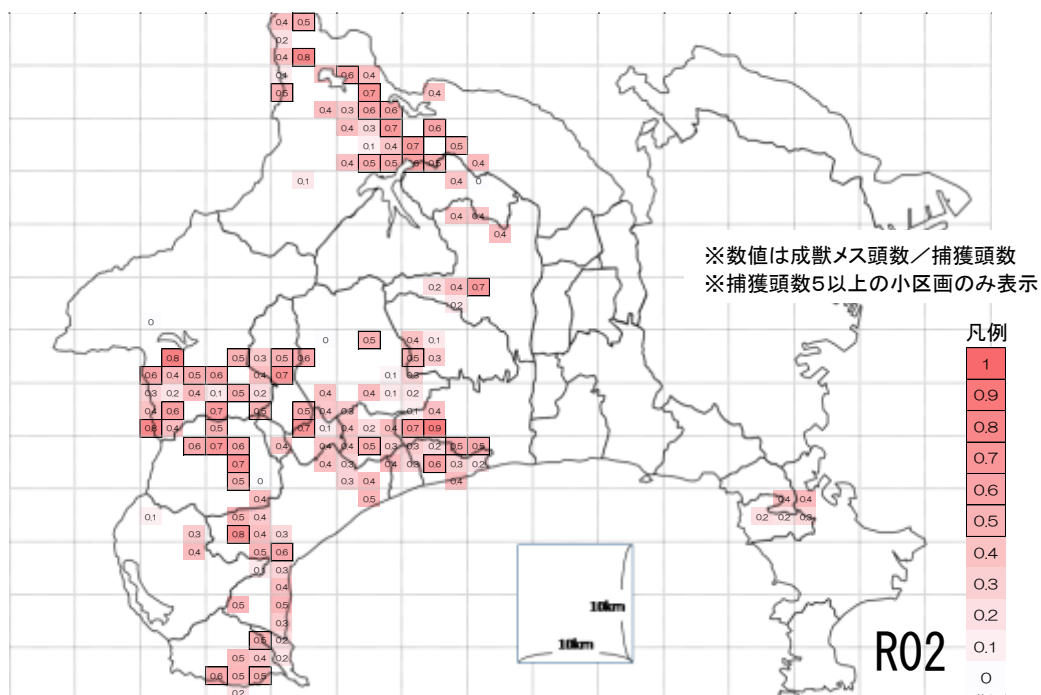


図9 成獣メスの小区域別捕獲割合（令和2年度）

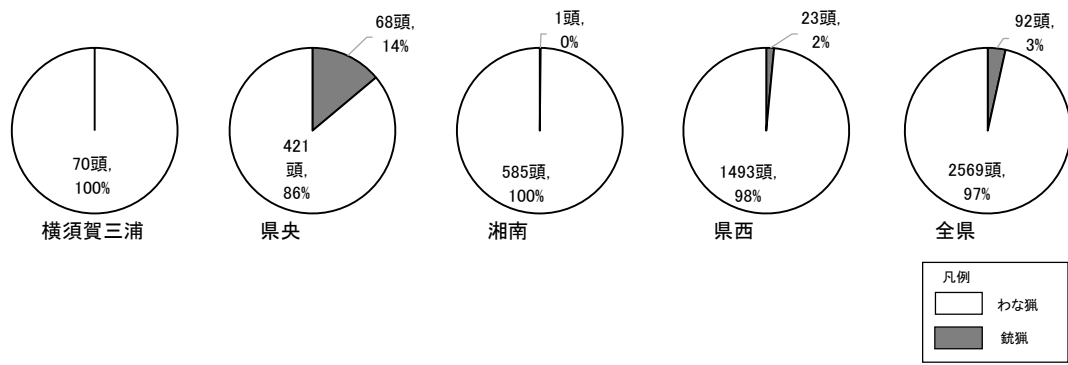


図 10 捕獲手法別・地域別捕獲割合（狩猟除く、令和2年度）

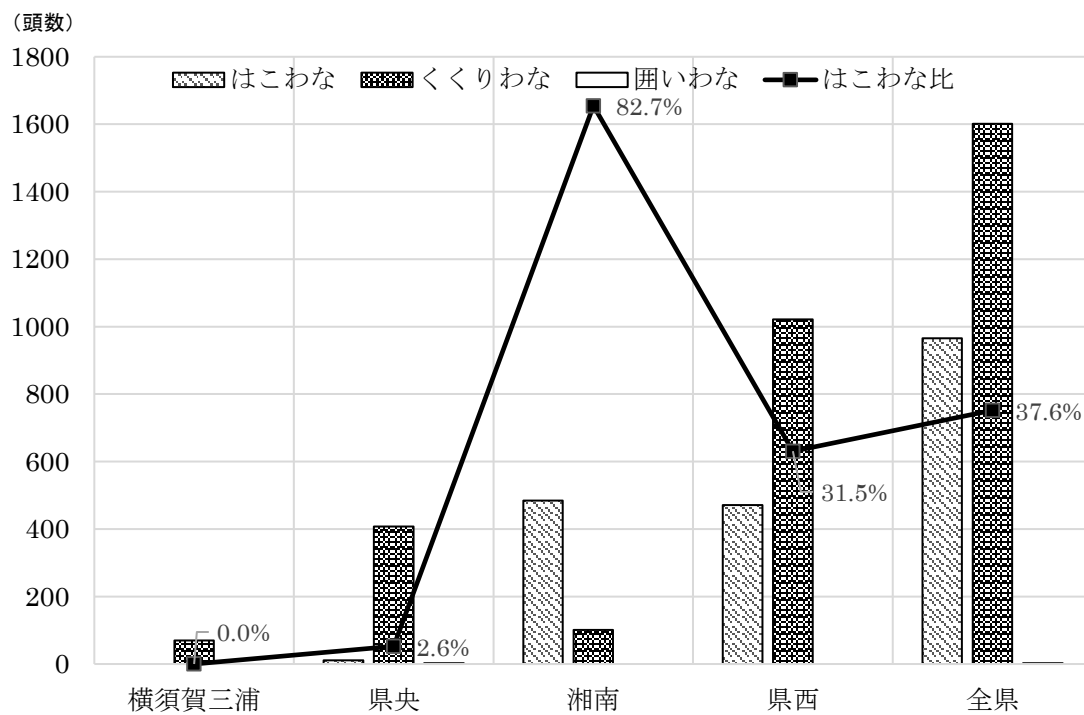


図 11 地域別・わな種類別捕獲割合（狩猟除く、令和2年度）

4 神奈川県内の指定管理鳥獣捕獲等事業の実施状況

神奈川県イノシン管理計画に基づき、平成30年度からの各年度で指定管理鳥獣捕獲等事業を実施した。

実施年度	事業種別	実施内容
平成30年度	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定等事業	横須賀三浦地域で生息状況調査を実施
	指定管理鳥獣捕獲等事業	横須賀三浦地域ではこわなや囲いわなによる捕獲を実施
	効果的捕獲促進事業	横須賀三浦地域でわなの遠隔監視システムを活用した捕獲手法について検証
令和元年度	指定管理鳥獣捕獲等事業	横須賀三浦地域ではこわなや囲いわなによる捕獲を実施
	効果的捕獲促進事業	県西地域でわなの遠隔監視システムを活用した捕獲手法について検証
令和2年度	指定管理鳥獣捕獲等事業	横須賀三浦地域でくくりわなによる捕獲を実施
令和3年度 (予定)	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定等事業	横須賀三浦地域で生息状況調査を実施
	指定管理鳥獣捕獲等事業	横須賀三浦地域でくくりわなによる捕獲を実施